

# (有)賃貸ルーム

大垣市・不動産業・福祉

従業員数 / 男性7名 女性17名 計24名 ※令和5年11月現在

エクセレント  
POINT

- ①細分化された7つの委員会で積極的に改善提案活動
- ②職員一人ひとりの悩みや家庭環境に配慮した面談を実施
- ③コロナ後でも工夫して地域貢献活動を継続



散歩途中に立ち寄ってくれた地域の幼稚園児。地域との交流を大切に、取組みを続けている。

賃貸ルームが運営するグループホームでんじゅでは、2017年に業務改善のための7つの委員会（入浴、環境、ケア、給食、レクリエーション、おむつ、医療・感染）を設置。職員は改善点を随時提案し、委員会の裁量で物品を購入したり、企画提案したことを形にしている。これまでに、膝の痛い夜勤者のためのリクライニングシートの導入や、

## 小規模企業の強みを活かして職員の個性が輝く

背の低い職員でも届く高さの棚の設置、利用者がくつろげるソファの選定、購入などの実績がある。

また、仕事の目標を明確にしてもらうとともに、悩みも言える場を設けようと、キャリアアコンサルタントの資格を持つ平野真弓所長による職員面談を年2回実施。

職員の子連れ出勤は、休校時や警報発令時の早帰りの際など、急な対応を要する時に認めており、2人の子育て中の河野志菜子さんは「学校行事、台風などで早帰りの際も子連れ出勤できることで安心して働けている。これまでも子連れ出勤できることで、娘も息子もグループホームで過ごせて助かった」と話す。正職員においては、子どもが帰宅する時間や習い事などの送迎など、一旦退社できるシフト勤務時間を設けており、子の成長に合わせた働き方を推奨している。



人材育成と職場改善の取組みが評価され、岐阜県介護人材育成認定事業でグレード1を取得。

地域貢献活動については、大垣市の「さわやかみまもりEYE」に登録し、入所者と職員が通学路を散歩して、異常を見つけた場合は自治体と連携し学校に報告したり、近くの幼稚園で認知症サポーター養成講座を実施。コロナ後でも手紙やオンラインなどで交流を続け、地域の介護人材の育成にも尽力している。